

# はじめに 授業実践から学ぶ

～私たちの授業実践はどこまで高まったか～

校長 川本 治雄

附属小学校には大別して三つのミッションがあります。まず、教育研究・教育実践の深化・充実です。第二が、地域教育への貢献です。最後に、教育実習の充実と実習生へのきめ細かな指導です。この三つは、いずれも、日常的な教育実践活動の中で深められ、高められていきます。私たち教員が、学校で働くすべての教職員とともに、日々の授業を通して研鑽を積む中で、育まれるものです。

ここ数年、「教師力」や「教育実践力」・「実践的能力」等の育成が課題になり、教員養成や教員研修の分野でも大きく取り上げられ重視されてきています。こうした力は、日常実践を重ね、実践を評価し、振り返ること（「省察」）によって、過去の実践が生かされ高まっていく中で培われるものです。また、他者の実践を批判的に検討することによって自らの実践を高めることができます。

秋に開催しております本校の教育研究発表会での公開授業や授業検討会が「実践発表」であるとするれば、一年間の研究を総括し、文章にして、まとめるこの紀要作成活動は、「誌上发表」であるといえます。

この紀要には、附属小学校としての全校の研究テーマに基づき、学級担任をはじめ教師としての一人ひとりがそのテーマを自分の今までの教育実践を通してとらえ直し、教科や領域の観点を加えながら、自己のテーマに照らして実践した記録を掲載しています。つまり、学校統一テーマを深めていくという創造的な取り組みを教育実践者としての視点からまとめたものです。

なかでも、「学びを深める」ため、三位一体の対話という視点から「自己」「教材」「他者」という三層の関わり合いを通して学ぶ「ダイナミックな学びの姿」を追究しようと取り組んできました。授業実践の中では相互に切り離すことのできない三層の重なりや互いの響き合いに似た状況を教室に展開する中で、子どもの言語表現・身体表現さらには感性の表現を通して、一つひとつの言葉をよりどころに、それぞれの教科や領域における学びを深めていく姿勢を大切に研究を進めてきました。

自己の読みやとらえ方、自己の行動や表現等を他者の目を通して客観化する中で、自己を相対化することによって、新たな自分を創造することができます。こうした姿を求めて、本年度は、「吟味」というキーワードのもとに取り組んだ研究成果の一端です。

私たちは、「授業の事実」に対して謙虚でありたいと思います。そして、常に学び続ける教師でありたいと考えています。「省察的な教師」といわれるように、日常の教育実践のリフレクションを通して学び続けるしなやかな感性を内面に育みながら、子どもを見つめ、子どもの可能性を引き出し教育実践を展開しなければならないと思います。（本誌紀要2010/3）

本校校内研究や教育発表会を中心にご指導・ご助言頂きました大学教員の方々をはじめ、教育委員会の先生方、また研究協力校等、多方面からお世話になりました。諸先生方に厚くお礼申し上げます。

今後の研究の進展のために忌憚のないご批判を賜りますようお願い致します。

(2011年3月)